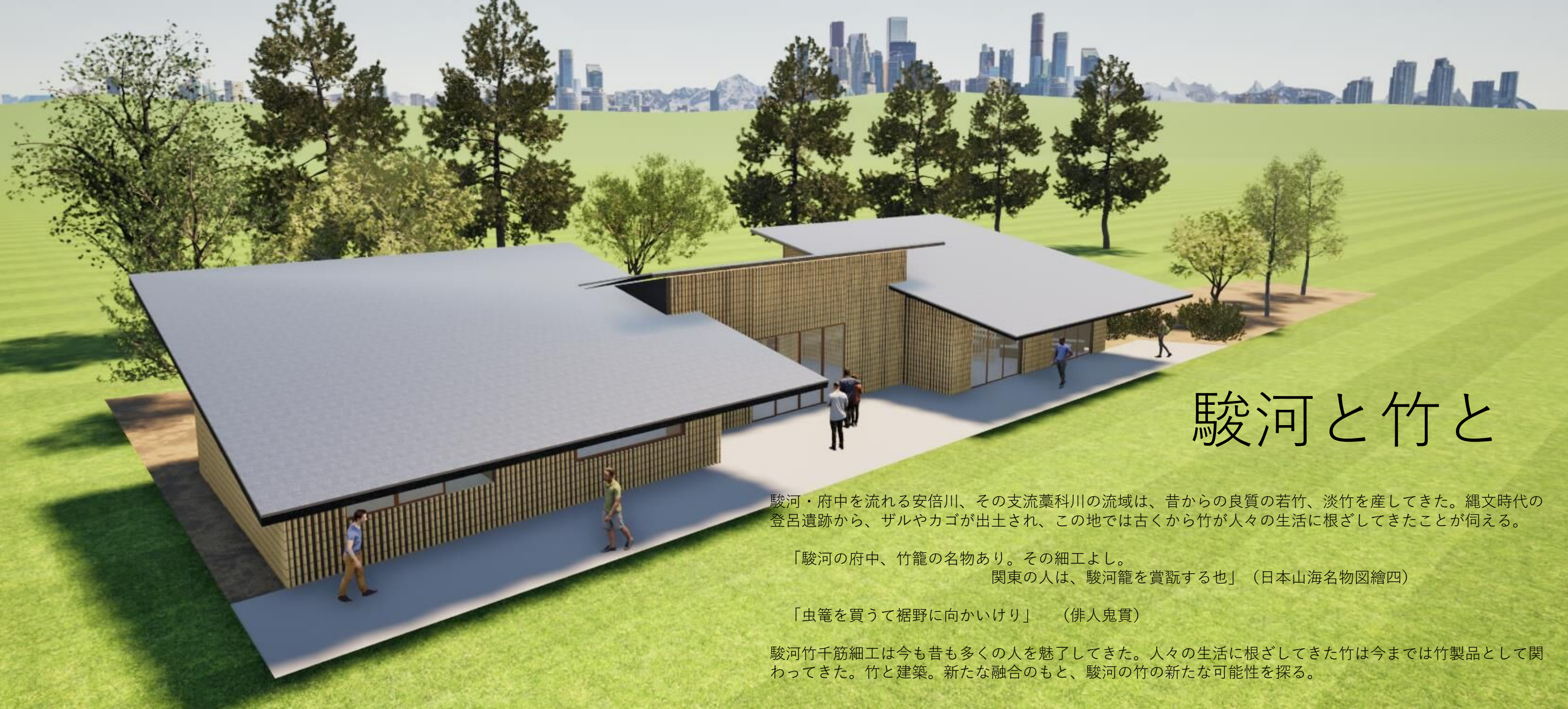




駿河と竹と

駿河・府中を流れる安倍川、その支流藁科川の流域は、昔からの良質の若竹、淡竹を産してきた。縄文時代の登呂遺跡から、ザルやカゴが出土され、この地では古くから竹が人々の生活に根ざしてきたことが伺える。

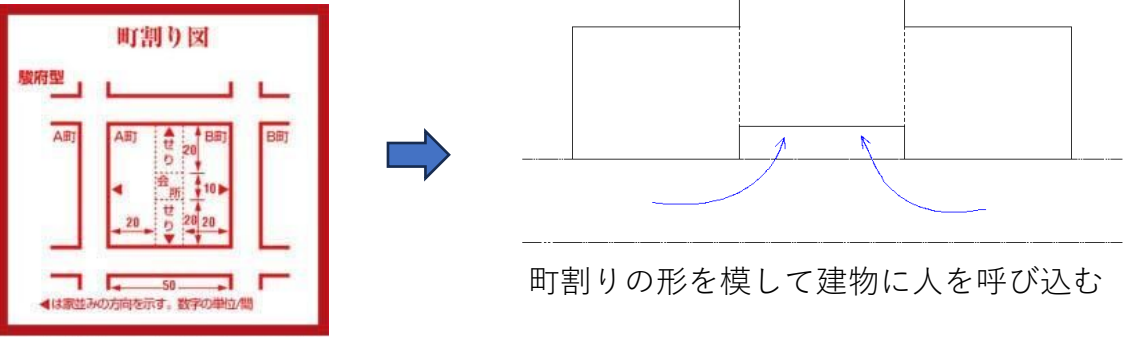
「駿河の府中、竹籠の名物あり。その細工よし。
関東の人は、駿河籠を賞翫する也」 （日本山海名物図繪四）

「虫簍を貰うて裾野に向かいけり」 （俳人鬼貫）

駿河竹千筋細工は今も昔も多くの人を魅了してきた。人々の生活に根ざしてきた竹は今までは竹製品として関わってきた。竹と建築。新たな融合のもと、駿河の竹の新たな可能性を探る。

01 平面計画

徳川家康の手によって計画された駿府の城下町は、駿府型町割りと呼ばれ、全国のまちづくりに影響を与えた。駿府城下町には、「せり(世里)・会所」と名づけられた空き地が置かれ、町々の必要に応じて使用することができた空間があった。



屋外デッキ(軒下空間)



展示室

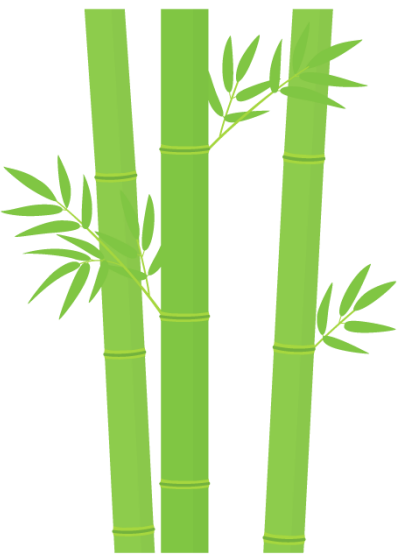
02 竹の柔軟性

細く割った竹を丸く削いで作る「丸ひご」の技法により、軽く、細かな模様や曲線が美しく表現される駿河竹千筋細工。本来持ち合わせている、まっすぐで力強い姿との対比がより美しさを感じさせる。竹をさまざまな方法で使用し、竹の魅力を伸ばす。



03 竹を使用するメリット

日本で鉄が不足していた時代、「竹筋コンクリート」として鉄筋の代替に利用されていたほど強度が高く、かつ軽量。また、二酸化炭素をよく吸収するため、カーボンニュートラルな素材でもある。世界一早く成長する植物ともいわれていて、もし付け替えが必要になっても、環境面でもコスト面でも、木材などよりも優れている。



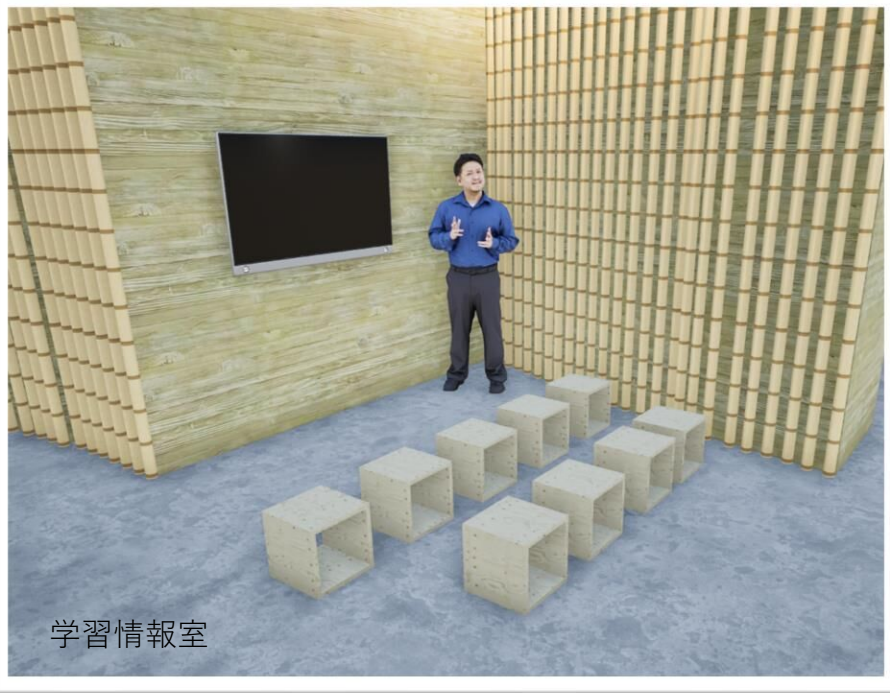
シアター兼休憩室



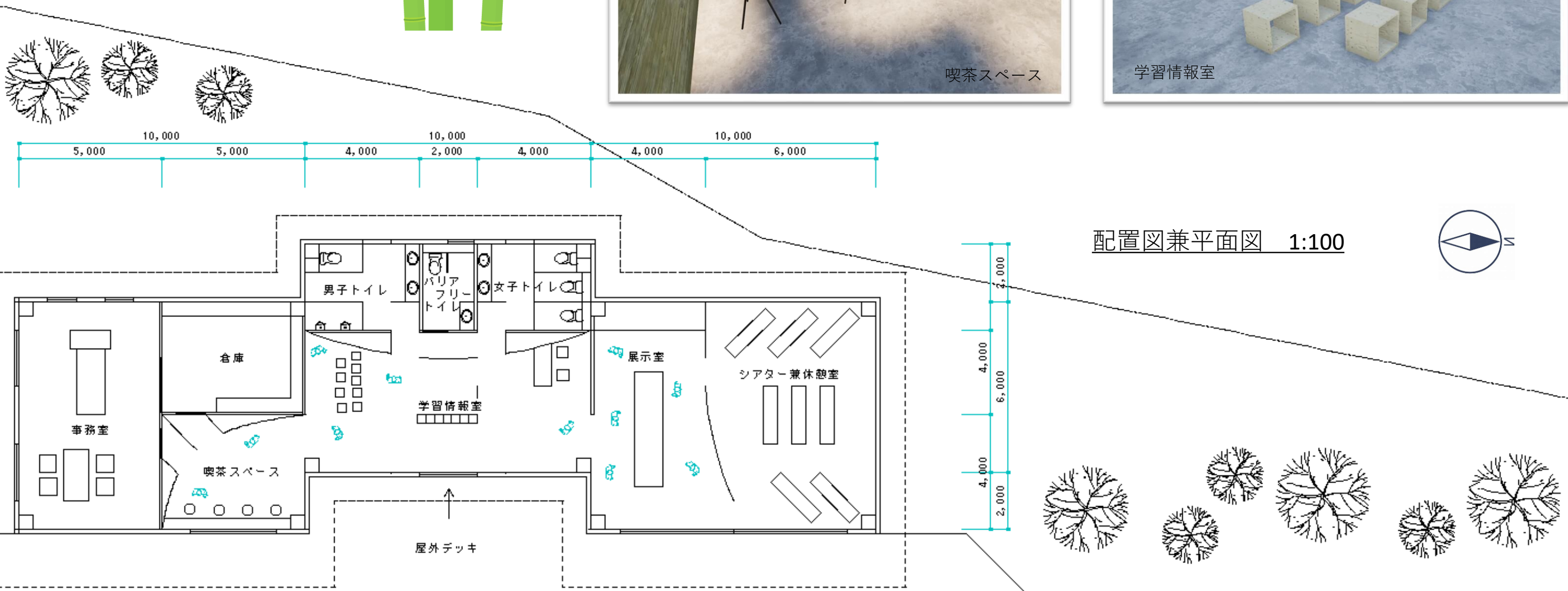
学習情報室



喫茶スペース



学習情報室



配置図兼平面図 1:100

